

# 農家が元気になると地域が美しくなる ～有機農業で拓く地域の未来～

一有機性廃棄物  
分解機能一

しもごと

## 下里・豊かな郷づくり委員会



あぜに移植した  
ヒガンバナ

周囲を山に囲まれ、農家の経営規模が小さく、主業農家が育たないことが背景にあり、集落の創意で付加価値の高い農産物生産を目指し、有機農業に取り組むこととなった。

集落の創意での有機農業と事業者との連携、環境保全型農業の推進による生きものの豊かな里山の実現、草刈りや花の植栽活動での集落環境保全活動を実践している。



おがわまち  
埼玉県小川町

### 〔有機性廃棄物分解、資源の過剰な集積・収奪防止〕

地域の土づくりは麦作前に地域等で発生する草木チップに馬糞、米糠、鶏糞、海草クズにバイオガスの液肥で水分調整した完熟発酵堆肥を10a当たり2～3t投入し埼玉県特別栽培農産物の無農薬・無化学肥料栽培を導入。水稻、大豆についても同様な栽培を行っている。

### 〔地域社会の振興〕

農産物の質を落とさないことを重視し、農業の効率性重視から共同活動やむらづくりの体制を整備することにより、住民と有機農業を応援する消費者との交流が図られている。集落全体の水田（15ha）での有機農業の広がり、有機米は県内企業、大豆は地場産業のとうふ店、小麦はパン屋、二条大麦は地ビール工房にそれぞれ契約栽培により提携し、安定した取引を行うことで地域振興へと繋がっている。

### 〔生物多様性の保全、体験学習と教育〕

霜里有機野菜塾、就農準備校有機農業専門学校などを実施する中で主に農作業を体験することで環境や農業への理解促進を図っている。

### 〔洪水防止、土砂崩壊防止、土壌侵食防止、地下水のかん養、景観保全〕

ブロックローテーションと休耕田での集団転作を行い、営農継続することで、これらの機能が発揮されている。



有機農業で集団栽培  
する大豆

下里の有機農産物から生まれた商品



こだわりを売るとうふ店頭では有機野菜も販売



米作りから酒造りを楽しむ会



みんなで楽しく農作業